

2011 JTAT Summer Workshop
Luncheon & 懇親会
Monday, June 13, 2011
12:30 pm – 2:10 pm
School of Humanities 119, Rice University

Participants (15 JTAT members)

Zaidi Shamshad, Hiroko Scharon, Mihoko Nakashige, Akiko Watanabe, Daniel Watanabe, Shigeko Metcalf, Michelle Brown, Chizuko Bolinger, Fumie Howard, Hiroko Sato, Yoshie Sweigart, Aya Hozan, Kozue Tategami, Keiko Hishida, Winnie Yenn

Guests: Mr. Takahiko Watabe (Acting Consul-Genera, CJGH), Mr. Matsutaro Yamasaki (Consul-CJGH), and Ms. Nair del Vecchio(Executive Director, JASH)

A panel discussion on “Issues on Japanese Education in Texas” and “Texas State Japanese Language Speech Contest”, etc. with Mr. Watabe, Mr. Yamasaki and Ms. Del Vecchio.

於： 懇親会、討議内容

JTAT 秘書であるスワイガードの挨拶に始まり、ゲスト渡部総領事代行、山崎領事、デベキオ事務局長（ヒューストン日米協会）が紹介された。そして、各位からの挨拶があり、特に渡部総領事代行からは、日本語を教えている現場での問題の有無を尋ねられた。また、在ヒューストン日本総領事館が国際交流基金と協力して支援できるプログラムの紹介(具体的には、幼稚園児から高校生までの日本語教師の給料の援助プログラム)と教科書寄贈プログラムの紹介があった。

JTAT のメンバーであるシャロン先生からは、日本語プログラムで使用している教科書が、そのプログラムに在籍している生徒達に不敵材であることが提示された。

ポーリンガー先生からも、同件について意見、考えが述べられた。

渡辺先生からは、ヒューストンにあるローカル紙「Southern Journal」の近況報告と JTAT 会員に寄稿依頼があった。

この件に関し、佐藤先生から日本語を学ぶ、英語園内の学生や生徒のために、日本語の諺や簡単な日本語会話の紹介コーナーを作ったらどうかとのアイデアが提唱された。

JTAT の秘書である熊谷から、JTAT の年中行事の日程について、JTAT 執行委員会で話し合われた内容を提示した。

それは、JTAT の年中行事（スピーチコンテスト、夏季研修会、JTAT 定例会、年賀状コンテスト)の日程の内、夏季研修会の日程だけが、4、5月にまず全会員に希望の日時を尋ね、執行委員会が希望の多かった日時を優先し決定していました。そのため、決まるまでに多大な労力と時間をかけていたこと。これを他の JTAT 年中行事と同じように会員が前もって夏季研修会の日程を予測できるようにしたい。

案として、現在最も多く所属している先生方のダラス学区とヒューストン学区の何れかの学区の内、遅く夏期休暇に入る学区に合わせ、その最終日の翌週の月曜日とする。

こうしたい もう一つの理由は、学区によっては、年度中に参加した研修会は、年度内の Professional Development Credit Hours にしか認められない学区があり、折角発行した Certificate の効用が発揮できない。それよりも、学期末終了後に研修を開催し、新年度の Professional Development Credit Hours の Certificate に利用できる、ようにする。

この案は、参加者全員からは、賛同を受けたが、今秋行われる定例会で再度取り上げ、正式に採択、決定したいと提示された。

佐藤先生からテキサス州スピーチコンテスト第4部門の上位1位、2位の獲得者が、ナショナル大会 オーロラスピーチコンテストでも 上位1位、2位を獲得したという大活躍の報告があった。また、4月に行われた **Jet Memorial Japan Trip Program** では、ダラスから一人選考され、テキサス州の活躍が目立ったことを報告された。

しかしながらまた、ここ4、5年の間に、**Japan Foundation** からの支援金が半減していること。次年度からは某支援団体からも支援金の大幅な削減の通知を受けていること。などの報告もあった。そして、来年度以降からのスピーチコンテスト州大会の構造見直しも余儀なくされているとの報告もあった。たとえば、スピーチコンテスト州大会の主催者であるヒューストン日米協会は対応策として、

- * スピーチコンテスト州大会の現行の第5部門は、現在大学生と一般社会人を一緒にしているが、これらを別々にし、一般社会人からは、参加費を設けること。
- * また、現行では、別々の1、2部門を一つの部門にまとめ、日本語能力発表部門(仮称)とし、発表内容には、詩、物語の朗読、グループ寸劇、日本語の歌、など日本文化で学んだことを自由な形式で発表できるようにする。評価の対象は、日本語の発音、表現力、初心者レベルの日本語を使っての創造性であること。

などを考えていることを示唆された。

この対応策の案は、今後もヒューストン スピーチコンテスト実行委員会で話し合いを進めるが、教師会内でも小委員会を設立し協議をしてはどうか、と提案があったことを報告された。

この件について、ボーリンガー先生から、フランス語を学ぶ生徒が参加する **French Symposium/Forum** 例が出され、以前から日本語もいろいろな側面から日本語能力が発表できる機会があってもいいのではないかと、意見があった。

中重先生から、詩の発表は、続行して欲しい、との意見があった。

渡辺先生から、**Japan Bowl** の例を取り、個人競技よりグループ競技の長所の提示があった。ブラウン先生から初心者なら、日本語で歌も歌えるのではないかと案も出された。

以上、**JTAT** の秘書、スワイガードの閉会の挨拶で、懇親会は午後2時10分予定通り終了し、午後の部のワークショップ研修へと移動した。

ヨシエ スワイガード
JTAT 秘書
記録